

差分法による拡散方程式の解法

2013 年 7 月 21 日

拡散方程式及び初期条件

$$\begin{aligned}u_t &= \kappa u_{xx} \\ u_0(x) &= \sin \pi x\end{aligned}$$

1 前進オイラー法

$$u(x, 0) = u_0(x)$$

$$r = \frac{\kappa \Delta t}{\Delta x^2}$$

$$u(x, t + \Delta t) = u(x, t) + r(u(x + \Delta x, t) - 2u(x, t) + u(x - \Delta x, t))$$

最後の式がそのまま，左辺を求めるために右辺を計算する関数を表す．

2 後退オイラー法

$$u(x, 0) = u_0(x)$$

$$u(x, t) = u(x, t - \Delta t) + \frac{\kappa \Delta t}{\Delta x^2}(u(x + \Delta x, t) - 2u(x, t) + u(x - \Delta x, t))$$

ここで，

$$\begin{aligned}u^i &\equiv u(x_i, t - \Delta t) \\ v^i &\equiv u(x_i, t)\end{aligned}$$

とすることにして, u^x が与えられた時に, v^x を求めるには次の一次方程式を解けば良い.

$$\begin{bmatrix} 2r+1 & -r & & & \\ & -r & 2r+1 & r & \\ & & -r & 2r+1 & -r \\ & & & \dots & \dots & \dots \end{bmatrix} v = u$$

一次方程式の解法には, 先学期の連続系演習で自分が作成したものを用いた (`./LU.scm`, `./solve-linear-equation.scm`).

3 クランク・ニコルソン法

$$r = \frac{\kappa \Delta t}{\Delta x^2}$$

$$u(x, t + \Delta t) - u(x, t) = \frac{r}{2} \left[u(x + \Delta x, t + \Delta t) - 2u(x, t + \Delta t) + u(x - \Delta x, t + \Delta t) \right. \\ \left. + u(x + \Delta x, t) - 2u(x, t) + u(x - \Delta x, t) \right]$$

後退オイラー法と同様の書き換えをすれば

$$\begin{bmatrix} 1+r & -\frac{r}{2} & & & \\ & -\frac{r}{2} & 1+r & -\frac{r}{2} & \\ & & -\frac{r}{2} & 1+r & -\frac{r}{2} \\ & & & \dots & \dots & \dots \end{bmatrix} v = \begin{bmatrix} 1-r & \frac{r}{2} & & & \\ & \frac{r}{2} & 1-r & \frac{r}{2} & \\ & & \frac{r}{2} & 1-r & \frac{r}{2} \\ & & & \dots & \dots & \dots \end{bmatrix} u$$

u が与えられた時, これを v について解けば良い.

4 プログラム (kaku.scm)

$$\begin{aligned} \kappa &= 2 \\ u_t &= \kappa u_{xx} \\ u(x, 0) &= u_0(x) = \sin(\pi x) \\ x &\in [0, 1] \\ u(0, t) &= u(1, t) = 0 \end{aligned}$$

について, 先に挙げた三通りの手法で直接法によって $u(x, 0.1)$ を求めるプログラムを `kaku.scm` として書いた.

厳密解は、以下のようである。

$$u(x, t) = \sin(\pi x) \exp(-\kappa \pi^2 t)$$

5 前進オイラー法の安定の確認

前進オイラー法の安定条件は

$$r = \frac{\kappa \Delta t}{\Delta x^2} \leq \frac{1}{2}$$

であった。 Δt の値は 0.001 に固定し、 Δx の値を動かして、 $t = 0$ での u の値を比較した。いくつかの Δx についての結果を ./kaku-stability.txt とした。各 (dx, r) のケースに対して、上から前進オイラー法、後退オイラー法、ニコルソン法、厳密解 での $u(0, 0.1), u(\Delta x, 0.1), u(2\Delta x, 0.1) \dots u(1, 0.1)$ である。

例えば、 $\Delta x = 0.05, r = 0.8 > \frac{1}{2}$ において $x = 0.1$ の値を見ると

forward Euler : -5.026618455013273e16

backward : 0.058

Nicolson : 0.051

exact : 0.043

と前進オイラー法だけ極端な値を取っている。

6 参考文献

1. <http://ja.wikipedia.org/wiki/差分法>